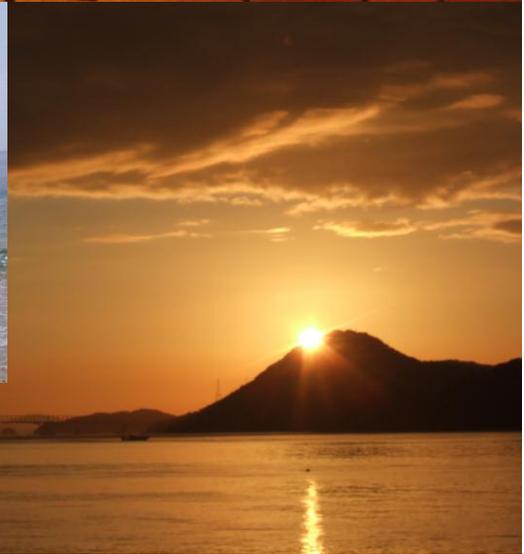




NIPPON  
BARE  
KAIDO

にっぽん晴れ街道

# 柳井市移住・交流パンフレット



## 人が輝く・夢が生まれる 瀬戸内のふれあい元気都市

美しい海と緑豊かな自然に恵まれた柳井市は、山口県の南東部に位置し、沿岸部、内陸部、半島・島からなり、沿岸部は瀬戸内海に面し、瀬戸内海国立公園にも指定されています。面積は140km<sup>2</sup>、人口は約3.5万人で、柳井地域の中心的な役割となる市です。

柳井市には、江戸時代から続く白壁の町並みがあり、国の伝統的建造物群保存地区に選定されています。往時の面影をしのばせる町並みで、心安らぐひとときを味わえます。

また、柳井市を代表する民芸品として、金魚ちょうちんが有名です。割り竹で組んだ骨組みに和紙を貼り、赤と黒の染料で色付けして作られ、今では夏の風物詩として、白壁の町並みにも彩りを添えています。

### 柳井市の気候

柳井市は、年間日照時間が全国でもトップクラスです。瀬戸内海沿岸部にあるため、夏は比較的涼しい気候となっています。積雪はまれです。



地域	気温					降水量	日照時間
	平均 (年間)	最高 (年間)	最低 (年間)	最高 (8月)	最低 (8月)		
東京	16.3℃	20.0℃	13.0℃	31.1℃	24.5℃	1528.8mm	1881.3 時間
大阪	16.9℃	21.1℃	13.3℃	33.4℃	25.4℃	1279.0mm	1996.4 時間
柳井	15.6℃	20.4℃	11.4℃	31.6℃	23.6℃	1689.5mm	2124.5 時間

資料：気象庁



## 交通のご案内



羽田空港から岩国錦帯橋空港まで飛行機で約90分。岩国錦帯橋空港から柳井までは約30kmの距離にあり、アクセスの比較的恵まれた環境にあります。

広島や福岡などの大きな都市へも、鉄道や高速バスなどを利用すれば、中心市街地から90分程度で行くことができます。

※岩国錦帯橋空港は平成24年12月13日開港

### お車の場合

- 岩国錦帯橋空港 — (車45分) → 柳井
- 玖珂 IC (山陽自動車道) — (車20分) → 柳井
- 熊毛 IC (山陽自動車道) — (車25分) → 柳井

### 公共交通機関の場合

- 東京 (羽田) — (飛行機約90分) → 岩国錦帯橋空港 — (バス12分) → 岩国駅 — (山陽本線33分) → 柳井駅 (※岩国錦帯橋空港から直行バス (約60分) あり)
- 新大阪駅 — (山陽新幹線100分) → 徳山駅 — (山陽本線35分) → 柳井駅
- 博多駅 — (山陽新幹線45分) → 徳山駅 — (山陽本線35分) → 柳井駅
- 広島駅 — (山陽本線85分) → 柳井駅
- 松山 (三津浜港) — (防予フェリー約150分) → 柳井港

## 生活情報

### インターネット・携帯電話

#### ◎インターネット

市街地を中心に、光ファイバ網による超高速通信が可能です。

#### ◎携帯電話

大手通信会社は、市内のほぼ全域で使用できます。

### 働く

ハローワーク柳井で各種相談をしています。

☎0820-22-1069

### 買い物

#### ◎商店街

柳井駅南北や、大島などにあります。

#### ◎コンビニ

14店舗が24時間営業しています。

#### ◎大型商業施設

売場面積1,000㎡以上の店舗は13店舗あり、うち10,000㎡以上は2店舗あります。

#### ◎農水産物

大島観光センターや遊気百菜（農産物直売所）などが人気です。

市内各所で朝市が行われています。

平成25年4月に都市農村交流施設「ふれあいどころ437」がオープンします。



ふれあいどころ437完成予想図

### 交通

#### ◎高速バス

田布施～広島間の高速バスが1日8往復運行されており、市内には4か所停留所があります。柳井市役所から広島までの所要時間は約80分です。

#### ◎路線バス

柳井駅や大島駅を拠点として、市内各地や周辺市町を結ぶバスが運行されています。

#### ◎鉄道

市内にはJR山陽本線が通り、柳井、柳井港、大島の3駅があります。約30分に1本の頻度で運行されています。

#### ◎フェリー

松山（三津浜港）と柳井港を結ぶ防予フェリーは、24時間連続運航されています。

平郡航路は、柳井港～平郡西港・平郡東港間で1日2往復運航されています。



平郡航路フェリー「へぐり」

#### ◎タクシー

市内で6社が営業しています。

## 医療福祉

- ◎一般診療所  
38 箇所（平成22年）
- ◎歯科診療所  
19 箇所（平成22年）
- ◎総合病院  
4 箇所（周東総合病院、国立病院機構柳井医療センター、恵愛会柳井病院、坂本病院）
- ◎高齢者福祉施設
  - ・介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム） 4 施設
  - ・介護老人保健施設 2 施設
  - ・居宅介護支援等の介護保険サービス提供事業所は市内に多数あります。
- ◎地域包括支援センター
- ◎柳井市社会福祉協議会

## 教育・子育て

- ◎学校施設
  - 小学校 14 校（うち1校休校）
  - 中学校 4 校、高等学校 3 校
- ◎子育て施設
  - 保育園・保育所 11 施設（認可保育所）
  - 幼稚園 2 施設
  - 子育て支援センター
  - ファミリーサポートセンター
- ◎図書施設
  - 柳井図書館、大畠図書館

## 文化・スポーツ

- ◎文化施設
  - サンビームやない
  - やまぐちフラワーランド等
- ◎文化団体・サークル  
234 団体（公民館等登録団体）

## ◎スポーツ施設

柳井ウェルネスパーク（テニスコート、プール、多目的広場、大型遊具等）、ビジコム柳井スタジアム（市民球場）、バタフライアリーナ（市体育館）、武道場、テニスコート、グラウンド等多数あります。



柳井ウェルネスパーク

- ◎スポーツ団体・スポーツ少年団  
154 団体（生涯学習・スポーツ推進課加入数）

## ごみ・資源

- ◎可燃ごみ  
週2回収集しています。
- ◎不燃ごみ  
月1回収集しています。
- ◎ペットボトル・古紙、カン・金属類、ビン・乾電池  
月1回収集しています。

## 上下水道

- ◎水道  
市街地には上水道、各集落には簡易水道が整備されています。一部地域では井戸水となっています。
- ◎下水道  
市街地などで公共下水道や農業集落排水が整備されています。



## UJI ターン体験者インタビュー (1)

● 森本 政彦さん (Jターン)

柳井市大畠在住

(平成24年10月15日インタビュー)

12年前、63歳で東京から奥様とともに移住してこられた森本さん。海沿いを走る国道188号線から一歩山側に入ったところに、一見して旧家とわかる白壁造りのご自宅があった。近くには、日本三大潮流の一つに数えられる大畠の鳴門（龍宮の西門）がある。

森本さんは北九州市の生まれだが、4歳の時に東京西郊の国分寺市に移住し、その後も武蔵野近辺に居住しつづけ、都心の出版社に勤めて編集の仕事に携わった。

国木田独歩は、武蔵野の風景美と詩趣をその随筆『武蔵野』で描いているが、20代の若き国木田独歩が過ごしたこの柳井の地に、縁あって移り住んでこられた。



### ♣ 田舎暮らしへの憧れ

勤めを退いて数年後、長年の東京生活に終止符を打って、奥さんの佳子さんが生まれ育った柳井市大畠に移住したのは、「魚が美味しいし（笑）、連れ合いの生まれ在所に憧れのようなものを抱いていたから」と森本さんは話す。

長年、みりんの醸造場を営んでいた佳子さんのご先祖が遺してくれた屋敷を住み尽くそう、とも思ったと言う。

### ♣ 日々を楽しむ

森本さんはほぼ毎日、奥さんと一緒にスーパーに買い物に出、帰りには海の里・山の里、神社仏閣、山間の古道の四季の景観の変化を眺めに、市内をこまめにドライブする。佳子さんは週3回、市内と岩国でスイミングを楽しむ。「毎朝食べるパンが美味しくないというのですが、越してきた当時と比べると、フランスパンもイギリスパンも格段に美味しくなった。玄米パンもうまい」と、柳井での食生活に満足のご様子。（写真：政彦さん・佳子さんご夫妻）



その他の時間の大半を、森本さんは翻訳の仕事に打ち込む。今までに5冊ほど刊行した。現在はデモクラシーの歴史を書いた1000頁を超える大冊に取り組んでいる。

### ♣ 地域と歩む

移住者にとって、地域の人間関係にうまく溶け込めるかは不安の種。その点をおたずねすると、「地元の習慣や、積み上がっている人間関係がわかっていないので、トンチンカンなことをしてやしないかと思うことはある。けれど、これまで特にトラブルになったことはない、自分では思っています（笑）。」社会福祉協議会の委員や自治会長を務め、神社の世話人をされるなど、積極的に地域と関わっておられるようだ。

2年前から「市民勉強会」と銘打って、地域の話題・課題をテーマに、毎回20人ほどが集まり、市在住のさまざまな講師の話を聴く催しもつづけている。

### ♣ 遜色ない利便性と、高い生活の質

都会と比べて、柳井暮らしは便利さという点でほとんど変わらない、と森本さんは言う。「自宅から徒歩で往復1時間前後の圏内に、地元の主婦がつくるお弁当もあれば、コンビニも医院もあって、基本的な生活の用は足せる。クルマで往復1時間ほどの圏内にはスーパー、量販店、公立病院、市役所などがあって、日常生活の用の99%は足せる。JRや高速道路を利用した日帰り生活圈（広島・福岡）には、デパートや大学病院や映画館がある。さらにインターネットを活用して生活圈を立体的に重ねれば、便利さという点で大都会と遜色ないどころか、海の幸、山の幸、地元ブランドが豊富にあるので、総合的に比較すれば、われわれ夫婦の生活の質と快適さは、大いに上がったと思います。」

都会との格差も、見方を変えれば決して格差ではなく、地域の総合力では都会の上に行く、そんな森本さんのお話に、強く背中を押していただいた感がある。「面白い人や起業するような人が、外からたくさん来てくれるとうれしい」と熱く語られる森本さんは、もう地の人の顔になっていた。



## UJI ターン体験者インタビュー (2)

- 松川 潤さん (I ターン)
- 松川三千恵さん (I ターン)
- 松川<sup>のぶこ</sup>洵子ちゃん (I ターン)

柳井市平郡島在住

(平成24年10月23日インタビュー)

松川さんご一家3人が、神奈川県から平郡島に移住されてきたのは、今から5年前。お嬢さんの<sup>のぶこ</sup>洵子ちゃんが1歳のときだった。

平郡島は柳井市の沖、伊予灘に浮かぶ人口約420人の島。鎌倉時代に木曾義仲の子「平栗丸(へぐりまる)」が島内に住み着いたのが島の名の由来とも伝えられている。本土とは、柳井港より1日2往復運航のフェリーで結ばれている。

潤さんは、高校で地理の教師をされながら、暇を見つけては海に潜っておられていたという。そして、学生時代からの島や海への憧れが、島への移住を決断させる。



(定期船から平郡東の集落を望む)

### ♣ 島と海への憧れ

魚を突いたり貝を採ったりする生活に憧れていたという潤さんは、職場に平郡島出身者がいた関係から、何度か来島。三千恵さんも夏と冬、2回島を訪れた。移住の決断に当たっては、「ホームページを通じた島民との出会いと、夢を叶えるための漁業権の取得に見込みがたったことが大きかった。」と振り返られた。

### ♣ 島で働く

潤さんは、海に潜ってサザエ、アワビ、ウニなどを採る傍ら、三千恵さんはデイサービスセンターで調理の仕事をしている。今年4月から、潤さんは公民館主事の仕事もされており、潜る回数は減ってきたという。島への移住に当たって心配なのが働き口。この点については、「タイミングが合えば、島内でも看護師や介護士の仕事があるかもしれない。」とのお話だった。



(お伺いしたご自宅で)



(入学式当日のクラスルームでの模様)

### ♣ 9年ぶりに小学校が再開

移住してきた時に1歳だったの<sup>のぶこ</sup>洵子ちゃんは、今年4月に平郡東小学校に入学した。同校の児童数は、昭和33年の399人をピークに減少が続き、平成15年4月から休校となっていたが、<sup>のぶこ</sup>洵子ちゃんの入学で9年ぶりに再開した。島で唯一の小学生の<sup>のぶこ</sup>洵子ちゃんは、島の大人気者。最近では、全国放送のテレビ番組で取り上げられることも多く、全国から多くの手紙が<sup>のぶこ</sup>洵子ちゃんに寄せられている。

### ♣ 島の恵み

本土との生活に比べ、不便なことも多いはずの島での生活。その点を潤さんにお伺いすると、「不便なこともあるが、島の生活に満足していなければここにはいない。ここでは、モノに追われることもなく、物欲もなくなった。自分で捕る魚や家庭菜園の野菜がとっても美味しい。もう、旬のもの以外を食べようとは思わない。」と穏やかな表情で語られた。

一方、三千恵さんは、移住前は花粉症やアレルギーに悩まされていたという。ところが、「やはり、空気がいいからか、花粉症の症状も和らぎ、アレルギーも収まっている。」と明かされた。そして、騒音に囲まれた都会の生活とは異なり、「瀬戸内は穏やかなので、海の側でも聞こえてくるのは、風の音、虫の音、鳥のさえずりだけ。」と語られた笑顔が印象的だった。

- ◆「都会での価値観は一度捨てることが大切。自分からコミュニケーションを図り、地域に溶け込んでこそ移住の意味がある。」とのご夫妻の語り口に、良き先達を得た思いがした。  
<sup>のぶこ</sup>洵子ちゃんからいただいた平郡ミカンのほどよい酸味がさわやかだった。

## 空き家バンク制度のご案内

所有者等から空き家に関する登録の申込を受け、登録を行った空き家の情報を公開するとともに、利用登録を行った者に対し、空き家の紹介を行う仕組みをいいます。手順は、次のとおりです。

1. 空き家情報閲覧	ホームページや柳井市政策企画課窓口にて閲覧できます。
2. 利用者登録の申込	詳しい空き家情報を受け、柳井市へ移住を考えられる方は、「柳井市空き家バンク利用者登録申込書」、「誓約書」、「同意書」に必要事項を記入し、入居予定者の住民票を添付し、柳井市政策企画課へ提出してください。
3. 利用者登録の完了	市より登録番号と登録日を通知します。
4. 物件見学の実施	空き家バンク登録物件で気に入った物件があれば、所有者と事前に日程調整の上、市担当者がその物件を案内します。見学をしないで、交渉・契約等することはできません。
5. 交渉・契約	移住希望者が所有者との交渉を希望されれば、市と協定を締結している不動産関係協会の会員の仲介により交渉を始め、重要事項説明の後に契約締結となります。市は交渉・契約に関与しません。

### 【注意事項】

空き家バンクに登録されている物件の紹介を行うときに、その所有者等並びに社団法人山口県宅地建物取引業協会又は社団法人全日本不動産協会山口県本部に、「柳井市空き家バンク利用者登録申込書」に記載された情報を提供することとなります。

◎お申込み・お問い合わせ 柳井市役所政策企画課 ☎0820-22-2111 内線 472

### ◎移住に関する問い合わせ先

〒742-8714 山口県柳井市南町一丁目10番2号

柳井市役所総合政策部政策企画課

☎0820-22-2111

FAX 0820-23-4595

E-mail seisakukikaku@city.yanai.lg.jp

URL <http://www.city-yanai.jp/>



平成24年11月作成